

常識ある行動

以上の3つの要件を備えた行動は、常識ある行動として現れる。常識とは、事に当たって言動が普通と変わらないことであり、頑固に陥らずに是非善悪を見わけ、利害得失を識別し、言語挙動すべて中庸に^{かな}適うことである。因みに、中庸とは何事にも極端に走らないことであり、自由と放縦、謙遜・律儀と卑屈、自尊^{きよごう}と倨傲、儉約^{けんしやく}と吝嗇、恭敬^{てんけい}と諂諛、意思と頑固などの間にそれはある。

常識を洪沢栄一は、『智、情、意』の三者が各々^{けんこう}権衡を保ち、平等に発達したもの」「普通一般の人情に通じ、よく通俗の事理を解し適宜の処置を取りうる能力」（「常識と習慣」『論語と算盤』所収）と説明している。智・情・意とは知性と感性と意志のことであり、人間のもつ三つの心的要素である。

智（知性）は、人が世に処するに当たって最も大事なものである。是非、得失、利害、安危などをよく識別して一身一家から国家社会を発展させる力は知である。その知とは知識ではなく、「知を^{いた}到すは物に^{いた}格るに在り」とあるように、あらゆる物事を知り、かつその是非善悪を弁別する力のことである。ただ学ぶ（知識を得る）だけではなく、深く研究すると同時に大いに思考する中から生れるものである。「学んで思わざれば則ち^{くら}罔し。思うて学ばざれば則ち^{あやう}殆し」（『論語』為政第二の十五）との格言にあるとおりである。

しかし、知ばかり働くと自分本位となって権謀術数に陥り、人を^{あざむ}欺きがちとなる。他人が馬鹿に見えて蔑むようになり、他人の迷惑や難儀などには目もくれなくなる。これが知の弊害である。この不均衡を是正するものが「情」である。

情（情愛）には、喜怒哀楽愛惡欲の七情がある。七情のバランスが取れていれば、世に処し事に当たって節度が生まれ、人生すべてが円満解決に向かってゆく。しかし、情の欠点は変化の大きいこと、即ち動きやすいことである。心の他の部面においてこれを掣肘するものが無ければ、感情に走り過ぎるという弊害を生じる。そこに「意志」が必要となってくる。

動きやすい情を牽制するものは強固な意志より他はない。意（意志）は精神作用中の本源である。ただし、^{いたずら}徒に意志ばかり強くなり、これに情も知も伴わなければただの頑固者とか強情者であって、社会人としての資格に欠けることとなる。

この三者を適度に調和させて大きく発展させること、即ち意志強固にして聡明なる智慧を加味し、これを調節するに情愛をもってするところに完全な常識が生まれるのである。

常識を養い発達させるには、第一に、分相応に振舞うことである。人は一寸^{ちよつと}調子がよいとすぐに自分の立場を忘れて分不相応の振舞いをしてしまう。また、困難に遭遇すると我を失くして打ち^{しお}萎れてしまう。頭脳を冷静にしてどこまでも自分を忘れぬように注意し、常に謙虚な姿勢で「今を生きる」ことである。

二つ目に必要とされるのは、感受性を養うことである。進歩や偉大な発明・発見あるいは悟りは、すべてインスピレーションや感動からはじまっている。感受性は、自分が充実していなければ出てこないものであって、放心状態や我を忘れたところには生じない。感

受性を豊かにする訓練として、古人たちは詩歌や管弦の道に勤しんだが、これに倣うことも一策であろう。

三つ目に必要とされるのは、修養しようとする意志である。修養とは日常生活の中で行うものであって、仕事や人間関係を通じて人格を高めようとする行為である。寺に籠って座禅をしたりすることのみではなく、日常の儉約を守るとか、正直に生きるといったことが修養となる。

この修養は約めるところ他人への思いやり（仁）に帰し、その精神は「礼」となって現われてくる。仁と礼は一体であり、自律的にみると仁となり、他律的にみると礼となる。礼とは他人への思いやりを目に見える形で表現することであり、「敬」の心から生じる。敬とは、高いもの・尊いものに対して発する感情である。人間が限りなく発展を望んで、未完成なものに飽き足らず、より完全で偉大なものに憧れるところから生じる感情である。

敬する心は、必ず恥じる心を伴う。恥とは、低いもの・卑しいものが高いもの・尊いものに遇って思わず自らの中に催す感情である。敬と恥の心から生まれた礼という目に見える態度を、一般的な社会生活の潤滑油としたのが「マナー」である。したがって、マナーは人間が生きていく上で必要とされる一定のルールの下限を賄うとともに、精神を陶冶する働きもしてくれるのである。

因みに、礼儀作法とは正しい社交的態度を教えるために体系化されたものである。長い経験の中から生じたもので、一定の結果を達成するための最も適切な、最も経済的な方式である。同時に、仁愛と謙遜の動機から発して他人に対する優しい感情を含むものであるから、同情の最も優美な表現でもある。

常識は修養によって培われるが、知情意が権衡を保った人は平凡である。平凡が最も難しい道であるが、この平凡な道を進んで倦まなければ、その常識はますます進歩発展することになる。